

ムラサキイラガ

ウスムラサキイラガ

8～9月に様々な広葉樹を食べる楕円形のイモムシ（幼虫）。体長最大約11mm。ムラサキイラガの幼虫の体毛は太い。ウスムラサキイラガの幼虫の体毛は根元だけ太い。

庭などのカツラやクルミなどで多発するといわれるが、どちらの種が多発するのか不明。



1. ムラサキイラガの幼虫。1994/9/8.

美唄市，庭のセイヨウミザクラ。



2. ウスムラサキイラガの幼虫，体長11mm。1998/8/7.

美唄市，グルチノーザハンノキ。

ムラサキイラガ

【学名】 *Astrapoda dentata*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， イラガ科 (Limacodidae)

【宿主】 セイヨウミザクラ，グルチノーザハンノキなど。

ウスムラサキイラガ

【学名】 *Astrapoda hepatica*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， イラガ科 (Limacodidae)

【宿主】 ポプラ，グルチノーザハンノキなど。

【特徴】

イラガ科の幼虫は頭部が体内に引っ込んでいること，胸脚がごく小さいこと，腹脚が不明瞭であることにより簡単に認識できる。

ムラサキイラガとウスムラサキイラガは上記のとおり体毛の状態が異なる。両種の幼虫はキンケミノウスバの幼虫に似ているが，キンケミノウスバの幼虫は6月に発生し，体毛が細く根元で膨らまない。

【生態】

ムラサキイラガとウスムラサキイラガはどちらも幼虫が夏から初秋にみられる。同じ木に両種の幼虫が混在して発生することも

ある。

室内で飼育したところ繭になって越冬，翌年の晩春に成虫になった。屋外であれば7月頃成虫が発生すると思われる。北海道では年1世代のようである。

【被害と防除】

ムラサキイラガは本州では古くから害虫として知られているが，図鑑類で掲載されている写真はウスムラサキイラガである。北海道では多発記録はないが，まれながら庭木などのクルミやカツラで多発することがあると聞いている。どちらの種かは不明。どちらの種も庭木などによくみられる。普通，防除は必要とされない。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ムラサキイラガ，ウスムラサキイラガ iraga/murasaki/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/9/29.

m-yochu.jpg, u-yochu.jpg

「写真1～2」原秀穂，北海道立林業試験場，1991.